

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）ニホンダイガク	フリガナ）ショウガクブ	フリガナ）タカイゼミナール
日本大学	商学部	高井ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 内動画 （有・無）	動画使用 スライドページ
フリガナ）タカイゼミエーチーム	フリガナ）ヨシ ユウタロウ	4	無	
高井ゼミ A チーム	吉 裕太郎			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ（発表タイトル）

活力ある高齢化社会を目指して

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

現代において高齢化が進行している。更に 2035 年には 3 人に 1 人が高齢者であると推測されており、今後ますます深刻化することが分かる。また、高齢者の世帯構成の変化を 1986 年から 2016 年を見ていくと、単独世帯が増加していることから、人との関わり合いが減少して、生きがいが低下するのではないかと仮説を立てた。平成 24 年の内閣府の調査より、どのような時に生きがいを感じるのかを調査した結果、上位 3 つに着目し、人との関わり合いによって生きがいを感じていると分かり、私たちは生きがいの人は人との関わり合いであると定義し、学生ならではの視点から新たなモデルを創造した。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

平成 24 年内閣府の調査より、生きがいを感じている人と生きがいを感じていない人では、生きがいを感じている人が多い。生きがいを感じている人においては、人との関わり合いによって、生きがいを感じていることがわかった。その反面、生きがいを感じていない人は、世帯別に見ていくと、単独世帯が多く、男女別で見ると男性の割合が圧倒的に多いことが分かった。その背景には、女

性は近所付き合いが多く、男性は、仕事で近所付き合いをする機会が女性よりも少ない点が要因であると考えられる。その結果人との関わり合いが減少し、生きがいの低下に結びついていると予測した。実際に 6 つの高齢者団体にお話を伺ったところ、現状の問題として、会員数の減少が挙げられた。割合において、女性多く、男性が参加しづらい環境であることが要因である。更に若者との関わり合いがないことも挙げられた。高齢者から働きかけても、若者が興味深い活動がなく、若者との関わり合いを諦めてしまうという問題点がある。

3. 研究テーマの課題

現在、地域単位で人と関わる目的とした活動が多く見られている。しかし、その活動の問題点として、男性高齢者が減少している点が挙げられる。調査から、現在仕事を引退した世代は男性は仕事、女性は家事という考えが根強く、女性は家事を通して近所の方と関わる機会があり、男性にはその機会がないことが原因としてあげられる。この、人との関わりの有無が、地域活動における参加のしやすさに影響している。さらに人との関わりは、調査から生きがいを感じるの程度に左右することが明らかになり、実際に男性高齢者は女性高齢者より生きがいを感じている人は少ないといった結果が出ている。

そこで私たちは今回、男性高齢者が人との関わり合いが少ない、かつ生きがいの低下を課題として活動を進めてきた。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちは、男性高齢者の生きがいの根本的な問題である、人との関わりの低下に着目し大学生との料理を通しての交流の場を提案した。大学生に、焦点を当てた点として高齢者の方に調査を行った際、現在仕事を引退した世代の方は、子どもは 30.40 代、孫は中学生以下といった世代が多く、大学生世代との関わりがないということが明らかになった。そこで、大学生に調査を行い、高齢者の関わりを持ちたいかという質問に、関わりたいと答えた人が半数以上を占めた。このことから、男性の高齢者と大学生の交流は有効なのではないかと考えた。

また、コミュニケーションツールを料理にすることで、身体的負担が低いということ、食は人の三大欲求の 1 つであり、生活する上で必ず必要なものであるということから、料理をとしての人との関わりあいの場の提供を提案した。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

大学生が高齢者との関わりに対して、どのように感じているかを調査するために、大学生 195 人を対象にアンケートを実施した。58%の方は興味があると回答した。それに加え、興味がない学生に対してなぜ興味がないかのアンケートも実施した。話が続くか心配 33.8%、趣味・価値観が合わない 27.5%、頑固で人の意見を聞かなそう 10%、若者に対して偏見を持っていそう 13.8%であった。そこで、話が続くか心配、趣味・価値観が合わない方に対して、事前に高齢者の過去の職業や趣味がのった自己紹介カードを渡すことで、会話の事前準備ができるようにした。頑固で人の意見を聞かなそう、若者に対して偏見を持っていそうという方にはイメージ払拭のため活動に参加していただくこととした。高齢者の方には、おとこの台所への参加、また高齢者が集まるイベントに参加し、インタビューを行ってニーズの調査に努めた。インタビュー結果から、高齢者側にもニーズがあることが分かった。おとこの台所の代表者との話し合い、少子高齢化専門の教授にプランを見ていただくなどから、プランのブラッシュアップに努めた。

6. 結果や今後の取り組み

アンケート調査、インタビューを通して、双方にニーズがあることが分かった。おとこの台所計 3 カ所の代表者・参加者から前向きな意見をいただいた。

今後の取り組みとして、まず、砧地区のおとこの台所へアプローチし、6 ヶ月間活動を行い、私たちの活動で参加者は人との関わりの範囲がどれくらい変化したかを LSNS でみる。変化があった場合、結果を基におとこの台所へ引き継ぎをしたいと考えている。砧地区のおとこの台所から始まり、世田谷区内全 10 カ所のおとこの台所で活動することを目指す。

7. 参考文献

- ・「仲間と共に自分を崇めよう！！人生はこれからだ」 <https://seta-odk.com/>
おとこの台所 [2018年8月20日閲覧]
- ・リタイア後の男性が料理を楽しむサークル「おとこの台所」が人気 <https://setamin.com/kurashi/13684>
くらしの世田谷 [2018年8月20日閲覧]
- ・「平成28年度 国勢調査」 <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/>
総務省 [2018年7月27日閲覧]
- ・「平成24年度 高齢者の健康に関する意識調査」
http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h24/sougou/gaiyo/pdf/kekka_1.pdf
内閣府 [2018年7月27日閲覧]
- ・「平成25年度 内閣府 高齢社会白書」
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/zenbun/pdf/1s2s_5.pdf
内閣府 [2018年8月2日閲覧]
- ・Cookpad Do! 「料理をもっと楽しもう」 <https://cookpad.do/>
クックパッド公式サイト [2018年8月3日閲覧]
- ・「A B C クッキングスタジオ」 <https://www.abc-cooking.co.jp/>
A B C クッキングスタジオ [2018年8月3日閲覧]
- ・「平成30年版高齢社会白書」
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html> 内閣府
[2018年7月15日閲覧]
- ・「平成29年度 介護保険事業状況報告」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/index.html
厚生労働省 [2018年7月15日閲覧]
- ・「砧総合支所」 <http://www.city.setagaya.lg.jp/shisetsu/1201/1231/d00006088.html>
世田谷区公式HP [2018年7月1日閲覧]
- ・「けやきネット」 https://setagaya.keyakinet.net/Web/Home/WgR_ModeSelect
世田谷区公式HP [2018年7月1日閲覧]
- ・「高齢者の孤独」を癒す「学生・若者とのホームシェア」の可能性は
https://www.huffingtonpost.jp/nobuto-hosaka/home-share_b_8283440.html
HUFFPOST [2018年7月15日閲覧]
- ・「高齢者向け健康料理教室」 <http://www.city.awaji.lg.jp/site/tiikihoukatu/kenkouryouri.html>
淡路市HP [2018年7月15日閲覧]
- ・平成28年度 国民生活基礎調査「世帯の構造と種類」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa13/dl/16.pdf>
厚生労働省 [2018年10月18日閲覧]
- ・平成29年度 「配偶者と死別した独居高齢者の人間関係」
group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2017/wt1707b.pdf
第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部 [2018年10月18日閲覧]
- ・平成30年度 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向「高齢者の地域社会への参加に関する調査」
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/pdf/1s2s_03.pdf
内閣府 [2018年10月18日閲覧]
- ・栗本 鮎美、栗田 主一、大久保孝義、坪田（宇津木）恵、浅山 敬、高橋 香子、末永カツ子、佐藤 洋、今井 潤

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください